

はるの里 通信

発行元 〒615-8241 京都市西京区御陵谷町7-1
 社会福祉法人はるの里 TEL/FAX 075-394-5930
 生活介護事業所はるの里 URL <https://www.harunosato.com>

題字：山下公子さん



はるの里通信 2025年冬号のお届けです。5年ぶりに開催したはるの里まつりやりすグループの活動の様子を載せています。ぜひ、ご一読ください！



お知らせ

いつも空き缶の提供、回収にご協力いただきありがとうございます。
 2024年10月～1月のリサイクル活動による収益は15,000円でした。
 収益金は仲間たちの給料となります。

きょうされんの冬の事業販売(カレーや食品等)で100件を超える個人・団体の方にお買い求めいただき、120万円を超える売り上げがありました。純利益が仲間の冬のボーナス支給になりました。
 ありがとうございました。

ご寄附

お名前の記載許可をお聞きできなかった方はイニシャル表記にさせていただきます。

- | | | | |
|-----|------|-----------|------|
| Mさま | お菓子 | バナナ加工組合さま | バナナ |
| Mさま | くだもの | Kさま | くだもの |
| Iさま | お菓子 | Yさま | 麺類 |

ありがとうございます。

訃報のお知らせ

社会福祉法人はるの里元理事長の黒住嘉輝が12月28日、90歳で死去しました。

優生思想による 差別や偏見の根絶を

きょうされん第48次国会請願署名・募金運動キャンペーン

優生保護法の被害について、39人の原告が国を訴えた裁判は、最高裁判所大法廷で、原告勝訴の判決が出されました。これはとても重要な判決となりましたが、障害のある人たちの暮らしはなお厳しいままです。障害のある人の人権が守られ、安心して生活が送れるよう、以下の6つの請願項目について要望します。

優生思想や障害による差別や偏見を根絶するため、国は責任をもつ国会の謝罪決議と補償法を速く周知し、優生保護法問題を全面的に解決してください

障害のある人の生活水準を「他の者と平等」にするために障害年金を大幅に引き上げるとともに家族依存から脱却できるための福祉制度を拡充してください

職員不足を解決し、障害のある人への支援を安定させるために、障害報酬の時間払いと日額払いをただちに見直し、基本報酬を大幅に拡充してください

障害のある人や子どもの障害福祉事業や補装具等の自己負担をただちに廃止してください

障害のある人が自己負担なく必要な支援を自ら選べるようにしてください

欠かせない役割を發揮している地域活動支援センターについて、国は実態を調査し、安定して運営・支援できるように国の責任で制度を拡充してください

しゅめいには
ごきょうりよく
おかけいたします

〈お問い合わせ先〉
生活介護事業所
はるの里
〒615-8241
京都市西京区御陵谷町7-1
TEL: 075-394-5930

はるの里も新しい年を迎えました。日頃より皆さまにはご協力頂き、ありがとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

元理事長黒住さんとの思い出

社会福祉法人はるの里の元理事長の黒住嘉輝さんが昨年12月末にご逝去されました。

黒住さんとは、今年の“はるの里40周年記念のつどい”で一緒させていただきましたのが最後となってしまいました。その折には、同じテーブルで親しくお話しさせていただきました。つどいも盛況になってきたところで一人の仲間が黒住さんに近寄って来られました。その時、黒住さんは「どうしたの？」とその仲間によさしく声を掛けられました。彼は、黒住さんの顔や服を触って親しげに「会話」している様子でした。何度か離れてはまた戻ってを繰り返して「会話」を楽しんでいました。私は二人の様子に触れて微笑まずにはおられません。仲間に、優しく心を開き、仲間も安心して、その人を受け入れている“だれもがこんな風に自然に穏やかな人間関係を醸し出せばなあ…。黒住さんはこんな方だったんだと深く心に残っています。

2025年新たな歩みを

さて、今年もはるの里は元気です。今年の11月、5年ぶりに開催された『はるの里まつり』は、多くの人々の参加で、盛況下で終わりました。コロナ流行による5年間のブランクは、様々な不安もありましたが、若い職員を中心に企画や運営、準備など、以前の内容をしっかり受け継ぎながら「新しい」「はるの里らしい」まつりを創り上げることができました。後片付けをボランティアさんや職員と終えた時「はるの里は大丈夫や」と思いました。

2025年は、暮らしについて、仲間や家族のねがいに耳を傾け、職員や関係者とともに知恵を出し合い、具体的な取り組みを始める年にしていきたいと思っています。今後ともご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

社会福祉法人はるの里 理事長 中神 常雄

第22回はるの里まつり報告

5年ぶりにはるの里まつり開催！！



2024年11月17日(日)に第22回はるの里まつりを開催しました。コロナ禍中はまつり開催を見送ってきたため、なんと5年ぶりのはるの里まつり！仲間・実行委員・保護者・職員のまつりの創り手も以前どのように準備してきたっけ？と少しの不安と、地域みなさんと楽しく過ごせる日にしよう！と期待感の入り混じる中、準備を進めてきました。

大盛況の当日！

当日はどれだけの人が来ていただけるのか…とソワソワしていました。が…、蓋を開けてみると以前まで毎年来ていただいていた地域の方やボランティアの方々が早々に来てくださっていて、びっくりなのと嬉しさの中、開会となりました。

仲間(利用者)のみなさんのオープニングステージで来場者をおもてなししてスタート。模擬店、プチバザー、作品展、製品販売、スライムづくりなどのワークショップ、バンドステージ企画のどこも大盛況でした！



午後からはステージで、はるの里開所当時から通所している仲間に登壇してもらい、“わたしの暮らしはわたしが創る”とヘルパーに支えられての一人暮らしについて語っていた様子が印象的でした。

つたえあい つながって

はるの里がある西京区でのまつり開催は22回目ですが、5年間空白があります。またここから関係者のみなさま、地域みなさまとつたえあい・つながっていくきっかけとなるまつりになったと実感しています。



わたしが思うはるの里

今回は、毎月のうたごえの活動に来ていただいている松木郁子さんにはるの里への思いを語っていただきました。ピアニストの方と一緒に毎回明るい歌声で仲間たちと楽しく元気に歌っていただいています。

私がうたごえではるの里に関わるきっかけになったのは、前所長の村井さんと大学時代に同じクラスだったことに始まります。そして月1回のうたごえ時間が設定されてからかれこれ20数年、30年近くになろうかと思えます。

まず嬉しいことはSさんが大きな声で「松木さんが来はったで！」と大声でみんなに知らせ私とピアニストをいつも温かく迎えてくれ、これから歌う空気を創ってくれます。ちょっと困るのは、通所メンバーの年齢がグンと若返り、こちらの知らない曲を仲間からリクエストされること。可能な限りYoutubeで下調べして臨みますが…。そして先日驚いたのはMさん。長くうたごえの時間に参加されていましたが、

終始おとなしくてわずかな反応しか示されないなあと思っていました。ところが「空も飛べるはず」という彼のお気に入りの曲ではなんとピョンピョン飛び跳ねて歌っておられるのです。20数年で初めて目にする姿でした。仲間とのお付き合いの長い、短いではありますが毎回誰かの新しい面が見られて私の励みになっています。 松木



いすグループの日常

いすグループの紙漉き



防災訓練



季節の行事



今年度、新たな仲間を迎えました！！
「楽しいこと大好き、作業、運動、創作頑張るぞ！！」



ボーナス学習



はるの里では、様々な自主製品づくりに取り組んでいます。いすグループが特に力を入れているのが、紙すきです。

牛乳パックを裁断するところから始まり、水に溶かし、はがきサイズから、名刺サイズまで様々な大きさの製品づくりをしています！！